

みゅーじあむ・船橋

Funabashi Historical Museum & Tobinodai Historic Site Park Museum News
みゅーじあむ・船橋
Vol.9

平成29年9月



第9号

| | |
|-----------------------------|-------|
| 博物館ニュース | [2] |
| 船橋の明治・大正・昭和 大正期の船橋町教育事情 | [3-5] |
| 船橋の古文書 百姓の印と檀那寺 一二子村「宗門人別帳」 | [6-7] |
| インフォメーション | [8] |

博物館ニュース

この項では、郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館の事業等について、ご紹介しています。

郷土資料館

平成 29 年 6 月 17 日(土)から 7 月 9 日(日)まで、飛ノ台史跡公園博物館と共催で、船橋市市制施行 80 周年記念企画展(写真展)「ちょっと昔と今×居間 @飛ノ台」を開催しました。展示を準備する過程では、ご所蔵の写真の情報をお寄せいただいたり、撮影場所付近のかつての様子をお教えいただいたりと、地域の方々にご協力いただきました。

また、サントリー美術館の企画展「神の宝の玉手箱」(5月31日～7月17日)にて、市指定有形文化財「瑞花双鳳五花鏡」と「梅花文鏡筥」の原品と復元模造品が、それ

ぞれ展示されました。会期中は、40,000 名以上が来場し、船橋市の宝を、多くの方にご覧いただくことができました。



梅花文鏡筥(復元模造品) 室瀬和美氏作



サントリー美術館「神の宝の玉手箱」展

飛ノ台史跡公園博物館

飛ノ台史跡公園博物館では、毎年夏休みに合わせて、市民が縄文文化に楽しく触れる機会を提供するために縄文コンテンポラリー展を開催しています。17 回目を迎えた今年は、船橋市が市制施行 80 周年にあたることから、市内在住の作家や当館にゆかりのある作家、海神中学校生徒の作品による展示を行いました。

その他、ふなばし美術学院こども絵画教室生徒と 7 月 2 日(日)の「植物染料(古代米・玉ねぎ・茜)でハンカチを染めよう」ワークショップ参加者が制作した作品の展示も行い、7 月 23 日(日)から 9 月 3 日(日)までの会期中に 3,551 名が来場しました。

また、7 月 23 日(日)に実施した「1 日で! 土器・土偶を作って野焼き! それを地面に埋めて発掘! 展示!」など、9 日間で 18 回のワークショップを行い、合計で 239 名の方にご参加いただきました。



縄文コンテンポラリー展のようす



大内公公作「樹状」

～ 船橋の明治・大正・昭和 ～

大正期の船橋町教育事情

1 はじめに

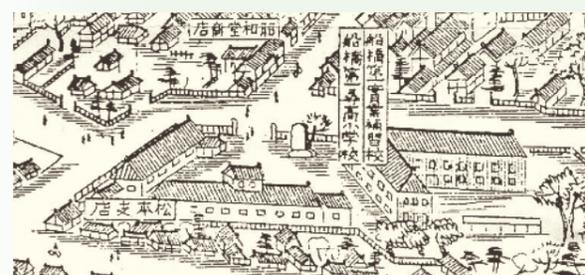
郷土資料館に、大正 3 年(1914 年)から昭和 5 年(1930 年)までの船橋町における教育関係書類の簿冊が収蔵されていました。そこには報告文書と通達文書が綴られています。

報告文書は、東葛飾郡役所と千葉県宛のものです。大正 15 年で郡役所が廃止されたため、同年 8 月からは千葉県学務部長宛となります。報告文書の内容は、町内学校や社会教育団体児童に関する現況と、教員の数や俸給等です。通達文書の大半は千葉県からのものです。

本稿では、大正時代初期に焦点を当て、当時の東葛飾郡船橋町の教育事情やそれを取りまく町財政の状況を概観してみます。また、大正の町財政に関しては別資料により、教育予算の推移を見ながら考察してみることになります。

2 大正期の船橋町の学校・教育団体・各種学校

※絵図はいずれも「船橋町鳥瞰図」(昭和 2 年松井天山)より
船橋尋常高等小学校(現船橋小学校)



明治 5 年(1872 年)行法寺に創設、明治 20 年九日市尋常小学校、明治 44 年船橋尋常高等小学校となります。

船橋実業補習学校

大正 7 年 4 月創設。船橋尋常高等小学校に併設。

船橋尋常小学校

(現宮本小学校) → 道山(現宮本公民館)にあった。図中「船橋尋常小学校分校」の「分校」とあるのは誤り



明治 6 年了源寺に真名学校として創設、明治 20 年五日市尋常小学校、明治 44 年船橋尋常小学校となります。

船橋第二実業補習校

大正 8 年 11 月設立。船橋尋常小学校に併設。

船橋尋常高等小学校海神分教場(現海神小学校)

明治 6 年地蔵院に創設、明治 20 年海神尋常小学校、明治 42 年分教場、明治 44 年の船橋尋常高等小学校の第三校舎となります。



船橋尋常高等小学校附属船橋幼稚園

大正 5 年 4 月 1 日創設。船橋尋常高等小学校に併設されました。

他、町費として運営されていた社会教育関係団体として、**船橋町青年団**(大正 4 年 11 月設立)と**船橋町処女会**(大正 11 年 4 月設立)があります。指導は、高等小学校の教員が兼務していました。

以上、町財政の教育費で運営された学校等です。

以下、船橋町にあった私立学校各種学校です。

船橋中学院

(現県立船橋高等学校)

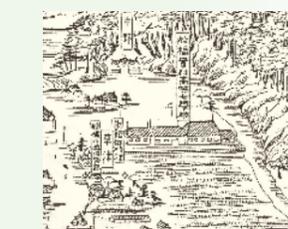
大正 7 年 7 月 29 日、東華学校として創設。大正 9 年 4 月 1 日に改称します。



船橋実科高等女学校

(現東葉高校)

大正 14 年 4 月に創設された女学校です。



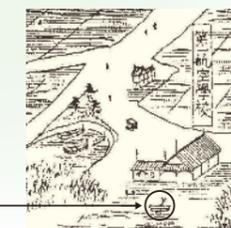
船橋和洋裁縫学校

明治 40 年 1 月 8 日創設。

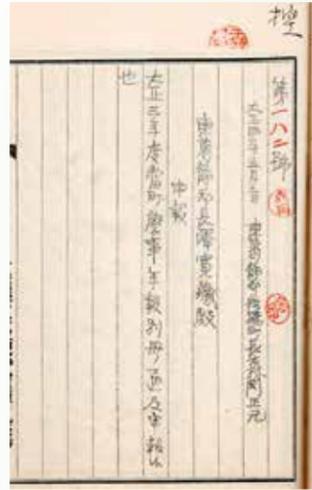
第一航空学校

大正 14 年から宮本の海岸べりにありました。

複葉機



3 学事報告書から見えてくる町の教育事情



←「大正三年度船橋町学事年報(控)」の表紙
大正4年5月、東葛飾郡長の澤寛藏宛てに提出したものです。町内の学校の規模、児童の在籍数や出席状況、教員数や平均給与と各種手当、地域の特色等が15ページにわたって記されています。

出席の督促努力

報告冒頭の学事状況の項に「家ニ不学ノ徒少ナカラザルハ遺憾トスル所ナリ」と書いています。続けて、「数次督責ヲ実施シ諭告ニ召喚ニ間断ナキ督励ヲセリ。殊ニ各小学校ニ於テハ、校外監督ノ方法ヲシテ家庭訪問ノ方法ヲ立テ、児童相互出席ヲ誘致スル風ヲ造リ、或ハ学級主任ヲシテ家庭訪問ノ方法ヲ実行シ、之ガ回数ノ如キ尋常高等小学校ノミテモ二百九十四回ニシテ」と、学校挙げての出席督促の活動を述べています。その結果、「驚クベキ熱誠ヲ以テ努力セラレタリ。之ヲ以テ従前八八十一名ノ不就学児童八十七人ニ減少セリ。…中略…上進ノ実アルハ当町教育ノ為慶スヘキ現象ニ属ス」と努力の成果を自画自賛とも思える文言でまとめています。

明治5年に国民皆学を掲げた学制を公布してからすでに40年が経過しています。今だに不就学児を減らすことが町の大きな課題であったことが読み取れます。

学校規模

「船橋尋常小学校八十一学級ニシテ二人、船橋尋常・高等小学校八十四学級ニシテ二十六人ノ教員配置ヲセリ」とあります。船橋尋常・高等小学校には海神の分教場が含まれます。大正3年度学齢児童数については、別の項の記載によると、男子1,248人、女子1,154人、計2,402人とあります。これを計35学級で割ると実に1学級あたり68.6人となります。現在の1学級35～40人の基準数と比べるといかに過密なものがわかります。

また、船橋尋常小学校(現宮本小学校)は11学

級で教員2人ですから、複式学級での指導であったことが推測できます。

学校での衛生管理

学校衛生管理に関しては、日々の清掃活動の励行と便所に消毒を施すことを強調しています。特に「児童ニシテ伝染病ニ罹リシモノ三名。死亡者ナシ。之等八規定ノ消毒法ヲ執行ス。職員ニシテ肺患ニ罹リシモノ三名アリ。之等八全校内ホルマリン燻蒸消毒法ヲ行ヒ焼棄スベキモノハ焼棄シ、器物ハ消毒ノ上石炭酸消毒ヲナス」と、児童においては伝染病と、教員においては肺結核への対処を強調しています。

また、児童の健康状態については、「児童一般健康状態前年ニ比シ佳良ナルモ眼疾及虫歯ハ過多ナルガ如シ」と虫歯と眼病の多さを指摘しています。眼病に関しては、明治33年前後にトラホームが全国的に蔓延したこともあり、その予防と治療が町としても課題であったことがうかがえます。

さらに、町の環境にふれ「海岸ノ常トシテ皮膚病多カリシ」という状況がありますが、「清潔ノ習慣ヲ造リ漸次減少ノ傾向ヲ呈ス」と改善に向かっていることを指摘しています。

教育予算と教員

「町会」の項に「大正三年度教育費予算ニ対シテ八備品費修繕費ヲ増加提案シタルモ、原案ニ決シ議事平穩ナリ」とあります。船橋町議会では、教育予算において学校の備品費や修繕費をスムーズに決めたと読み取れます。

しかし、「小学校」の項には次の記載があります。「授業料ハ高等科ノミ徴収シ、尋常科ニテハ一切徴収セズ。学校学級編成ハ尋常高等小学校ノ学年八人員過剰ノ為学級ヲ増スノ必要アルモ、他ハ適当ナリ」と児童の過剰に学級編成が追いつかない状況を述べています。それは、採用教員数を増やすことによって解消するはずなのです。しかし、続けて「教員ノ配置八年度末ニ於テ適当セルモ、年度内教員ノ転任教員ノ異動ハ稍多キノ感アリ。教員ノ俸給平均額十九円ナルモ、実際支給平均額二十二円ナレバ平均額ハ増加スルノ必要アルヲ認ム」と述べています。

「年度内の教員の異動が多い、それは、給与額に関係している。平均給与額が19円なのに実際は各種手当てを入れて22円まで支給しているのに辞めてしまっている。年度末まで定着させるなら給料の

額をもっと上げるべきだ」と暗に指摘しているようにも読み取れます。

4 船橋町財政状況

ここで当時の町財政と教育予算の関係を別資料で探ってみることにします。

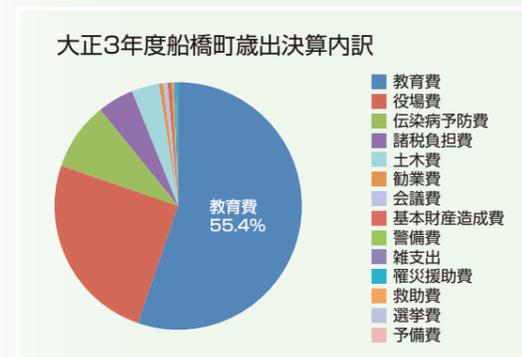
「大正三年度歳入出決算表」は東葛飾郡船橋町役場が大正4年に作成したものです。資料は西図書館で見ることができます。

当時の財政状況を図表で示します。

大正3年度船橋町歳出決算

| No | 項目 | 予算額(円) | 構成割合 |
|----|---------|--------|--------|
| 1 | 教育費 | 11,232 | 55.4% |
| 2 | 役場費 | 5,069 | 25.0% |
| 3 | 伝染病予防費 | 1,834 | 9.0% |
| 4 | 諸税負担費 | 968 | 4.8% |
| 5 | 土木費 | 698 | 3.4% |
| 6 | 勸業費 | 144 | 0.7% |
| 7 | 会議費 | 117 | 0.6% |
| 8 | 基本財産造成費 | 100 | 0.5% |
| 9 | 警備費 | 62 | 0.3% |
| 10 | 雑支出 | 36 | 0.2% |
| 11 | 罹災救助費 | 20 | 0.1% |
| 12 | 救助費 | 10 | 0.0% |
| 13 | 選挙費 | 2 | 0.0% |
| 14 | 予備費 | 0 | 0.0% |
| | 計 | 20,292 | 100.0% |

註 円以下切捨て



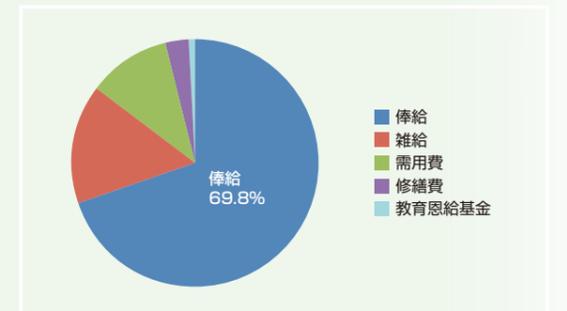
教育関係費は町予算の実に55パーセントを占めていたのです。平成29年度船橋市一般会計予算書によれば、歳出に占める教育費の割合は13.9パーセントです。これと比べれば、当時の町財政にとって教育費の扱いがいかに大きな課題であったかがわかります。教育費の増大が地方財政を逼迫させる大きな要因になっていたことは全国的に見られた状況でした。

なぜ教育費がここまで大きな割合を占めることになっていったのか。それは教育費の内訳を見ればわかってきます。

教育費の内訳

| No | 項目 | 決算額(円) | 構成割合% |
|----|--------|--------|--------|
| 1 | 俸給 | 7,843 | 69.8% |
| 2 | 雑給 | 1,752 | 15.6% |
| 3 | 需用費 | 1,227 | 10.9% |
| 4 | 修繕費 | 335 | 3.0% |
| 5 | 教員恩給基金 | 75 | 0.7% |
| | 計 | 11,232 | 100.0% |

註 円以下切捨て



教育費のうち約70パーセントを教員の俸給費が占めていたのです。

学事関係文書綴には下の冒頭の文書が残されています。「義務教育費国庫負担増額促進会」が大正15

年、全国市町村に配布した文書です。全国の市町村長、小学校長、農会長に訴えています。大正も末になる頃には、教員給与の国庫負担要望が全国運動となっていました。

大正3年度以降の町予算の内訳の変容経過を見ていくと、国庫負担金が教育費予算に算入されるのは大正7年度からです。その額29,170円。負担金は年々増額されます。しかし、町の教育費予算も増加する一方で、大正14年度には55,000円と10年前の5倍に達していました。

船橋町はどうかやりくりしながら、町の「百年の大計は教育にあり」を体現していったのです。(Y.M)

